

《新構想》 日本現代文芸の研究

担当教員 中村 三春

北海道大学大学院 文学研究院
言語文学専攻 映像・表現文化論講座 教授

授業概要

多様な変容を遂げてきた日本の現代文芸を、テキストの読解、海外の文芸との関係、さらに美術や映画との交流などの多様な観点から読み直します。

到達目標

日本近代・現代の小説・詩を自分で読み解く能力を身につけ、その結果としての分析と批評をまとめた感想レポート、および論文レポートを執筆し、文芸と言語についての理解を明確かつ具体的に表現できる。

成績評価

【基準】

平常点：毎回の感想レポートの提出の有無によって評価する。

期末評価：平常点に加え、期末レポートの内容的水準によって評価する。

【方法】

感想レポート 30%

期末レポート 70%

いずれもELMS（教育情報システム）を利用して提出する。

授業計画

（〈 〉内は主に取り上げる作品）

- 第1回 ガイダンス 現代文芸研究の方法
- 1 夏目漱石『こころ』の運命〈『こころ』〉
- 第2回 『こころ』の研究史と現代的な『こころ』論
- 第3回 『こころ』と物語のメカニズム
- 2 宮澤賢治のハイパーテキスト〈「風〔の〕又三郎」〉
- 第4回 賢治的テキストの発見
- 第5回 「風〔の〕又三郎」の謎
- 第6回 稿本「風〔の〕又三郎」とは何か
- 3 沈黙の言葉 一谷川俊太郎〈『『六十二のソネット』『定義』〉
- 第7回 沈黙の詩
- 第8回 テキストと百科事典
- 4 姦通小説の終焉
〈夏目漱石『それから』金井美恵子『文章教室』〉
- 第9回 姦通小説の歴史とジェンダー
- 第10回 『文章教室』と現代の姦通小説
- 5 太宰治のメタフィクション
〈「道化の華」「ヴィヨンの妻」「おさん」〉
- 第11回 「道化の華」のメタフィクション構造
- 第12回 太宰治のメタフィクションとデカダンス
- 第13回 デカダンスと女性
- 6 村上春樹と〈愛されない〉ということ
〈「品川猿」『ノルウェイの森』〉
- 第14回 「品川猿」と〈愛着障害〉
- 第15回 『ノルウェイの森』とヴァルネラビリティ（傷つきやすさ）の悪循環